

2021年度 第3回 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト推進協議会 議 事 録

1. 開催日時： 2022年2月24日(木) 19:00～20:38
2. 開催場所： オンライン開催、町田市医師会館
3. 出席委員： 川村益彦、五十子桂祐、山田潔、高橋克也、岡元信太郎、西原佳子、大島泰嗣、臼井亨、川島政美、常盤弘幸、龍山敏幸、及川裕美子、永見直明、井上健太、大庭陽平、小金栄太、長谷川昌之、齋藤美和子、青木範和、菊地原裕(代理)
計 20名(敬称略)
4. 欠席委員： 齋藤秀和
5. 市側出席者： 高齢者福祉課 皆川麻美、二串裕人、山田冬射 (敬称略)
6. その他報告者： 菅朋宏、伊藤久美 (敬称略)
7. 傍聴者： 68名
8. 記録： 町田市介護人材開発センター 石原正義、宮本千恵、倉貫理恵

《資料》

- | | |
|--------|--|
| 資料1 | 第17回多職種連携研修会「使おう！わたしの受診券～町田市の成人健康診査及び各種検診について～」報告書 |
| 資料2 | 2022年度資源マップ情報記載データ更新について |
| 資料3 | 町プロ多職種連携ツールに関するアンケートについて |
| 資料4 | 第10回喀痰吸引研修報告 |
| 資料5-1 | 地域ケア推進会議報告書(南圏域①) |
| 資料5-2 | 地域ケア推進会議報告書(町田圏域) |
| 資料5-3 | 地域ケア推進会議報告書(堺1) |
| 資料5-4 | 地域ケア推進会議報告書(忠生2) |
| 資料5-5 | 地域ケア推進会議報告書(南圏域②) |
| 資料6 | 町プロ多職種研修会緊急企画 動画配信について |
| 資料7 | 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト実施方針(2022～2024年度)(案) |
| 資料7別紙1 | 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクトの取り組み(～2021年度)(案) |
| 資料7別紙2 | 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト(2022～2024年度)工程表(案) |
| 資料8 | 救急医療情報キット部会立ち上げについて(案) |

《開会》

1 開会挨拶

【高齢者福祉課・青木氏】皆様、こんばんは。お忙しい時間にお集まりいただきありがとうございます。今回町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト推進協議会も本年3回目最後になる。皆さまのご協力のもとに協議事項、報告事項を進めて参りたい。今日も新規感染者が東京で1万を超えており、減ってきているとは言え、1万というのは異常とも言える数字かもしれない。皆様も健康に気を付けていただきたい。本日は宜しく願いいたします。

2 報告事項

(1) 第17回多職種連携研修会開催報告について【資料1】

【研修部会長・菅氏】菅氏より資料1に沿って報告された。

動画配信は引き続きおこなっており、3月10日までのアンケート締切となっているので皆様のご協力をお願いしたい。

【山田委員】時間的に皆さんに検診を受けていただく内容として理解できたのか不安だったが、無事に

終わることができてよかった。今回収録したものを私の部分のみで結構なので、歯科医師会のホームページで共有させてもらうことは可能か。

【高齢者福祉課・二串氏】 有益な情報なのでぜひ共有していただきたいと思う。また町プロのポータルサイトにも資料と動画があがっているの、そちらをリンクいただいてもいいのではないかと思う。ご検討のほどよろしく願いたい。

(2) 医療と介護の資源マップ情報更新のお願いについて 【資料2】

【高齢者福祉課・山田氏】 山田氏より資料2に沿って報告された。

(3) 多職種連携ツールに関するアンケートのお願いについて 【資料3】

【長谷川委員】 長谷川委員より資料3に沿って報告された。

【五十子委員】 医療機関はどこも朝はじまってから1時間くらいは問い合わせ等で電話もつながらないような状況かと思う。このアンケートは用紙が届いてFAXで送るというようなものなのかと推察する。実際このツールはとてもいいものだと思っているが、この状況の中でアンケートをすることで逆なでをするのではないかと懸念がある。各団体の方はどうだろうか。おそらく医師会の先生方はそのように思う方が多いのではないかと思うがいかがだろうか。

【高齢者福祉課・皆川氏】 アンケートの時期は2022年3月を目途にお願いしようと考えている。現在新型コロナウイルス感染がかなり拡大している状況なので、3月に依頼というのは控えた方がいいという意見があれば時期については見直しをしたい。各連絡会の意見もいただきたい。

【西原委員】 ソーシャルワーカー連絡会としては①～⑥というのは非常に関連するものであるが、ソーシャルワーカーがお答えするのは主に医療関係で、その他福祉関係者はあまり利用が把握されていないだろうと思う。気になったのは3月の年度末という時期は回収が早すぎると感じる。またこれをどのよういつまでに活かされるのかということが、アンケート内容が書いていなかったのではわからなかった。やはり繁忙期は短い締切というのは難しいのと、会員までできればおろしたいが、その集約に事務局の負担があるのかなと感じた。

【永見委員】 リハビリ連絡会は①～③となっているが、病院のスタッフであれば④は違ったとしても⑤のケアマネサマリーを見させていただいて活かしているかどうかということもリハ職にも聞けるのではないかと考えたので、ご検討いただきたい。時期については年度末ということになると、忙しい時期になっていくと思うので少し猶予をいただけたらと思う。

【長谷川委員】 締切の方は検討させていただきたい。アンケートの実施方法の関連する項目というのは市との協議で内容を確定したが、あらためていただいたご意見で調整し、提案するということがいかか。

【五十子委員】 目的は利用実態調査をすることがメインなのか、それとも認知度の向上をはかることがメインなのかどちらだろうか。

【高齢者福祉課・皆川氏】 基本的には利用実態の調査がメインのアンケートとなる。同時にアンケートをすることで認知度が向上する。特に医療と介護の地域資源マップは今まで利用が少なかったが、アンケートを行うことによって利用が少し増えたという実績が過去にもあったので、この機会に知らない人にも知っていただくということを付随してできればいいと考えている。

【長谷川委員】 実施の是非については、今後の連携ツールのためにアンケートを実施させていただきたい。

実施については了承され、内容と時期については検討となる。

(4) 第10回喀痰吸引研修の実施について 【資料4】

【町田病院・伊藤氏】 伊藤氏より資料4に沿って報告された。

(5) 地域ケア会議について 【資料5】

【長谷川委員】 長谷川氏によって資料5に沿って報告された。

前回協議会委員からいただいた地域ケア会議への参加についての報告になるが、前回の協議会以降、確認を取らせていただき、歯科医師会、薬剤師会については会の方に依頼をする。医師会については圏域全域で大きく行い幅広く参加を依頼する場合は事務局から医師会の医療機関に通知をするという今年度同様の形で、圏域で課題抽出を行う企画会等については個別に医療機関に依頼をするということで、次年度以降も各支援センターの方からご案内することになっている。次年度、協議会にてこの町プロ推進協議会も含めた、地域ケア推進会議の個別や全体または企画会について説明をしていきたい。

【五十子委員】 資料5-3堺の地域ケア推進会議の中で、連携ツールでICTツールの活用とあるが、何を使ってどのようにするのか。また心の病を抱えている方は精神疾患ということになると思うので、プライバシーの問題などどういった話し合いになったかを教えていただきたい。

【長谷川委員】 ICTツールの活用については、実際に他の圏域で使われているMCSやカナミックなどの説明をし、まだ具体的にどのツールを使っていくか、支援センターの方でも検討しているので、これを使っていくという決定はしていない。こういうものを使って連携していく方がスムーズだという話まで出ている。

【五十子委員】 堺となると町田だけではなく、相模原との連携もあるので違う問題も出てくると思うが、そうした点は話し合いでは出たのか。

【長谷川委員】 相原の方は町田市内だけでは解決できないものもあり、八王子、相模原の医療機関とコミュニケーションを取らなくてはならないという点は、どちらかという町田市内の先生より他市の先生とのやりとりが多い。ICTツールを使うことでどう展開できるのかという詳細の部分では話し合いでは出していない。他の圏域の医療機関との連携をしていく必要があることについては、一部でケアマネサマリーなどは入院の際に町田市のものではあるが、利用するなどして連携をとっている。

地域ケア会議の周知について、圏域によって手法が違うことについては次年度整理してまた報告する。

3 協議事項

(1) 多職種連携研修会緊急企画・動画配信について 【資料6】

【高齢者福祉課・二串氏】 二串氏より資料6に沿って説明された。

【小金委員】 今まで7回の動画を公開しているが、見ている回数はだんだん減ってきていると思われるが、そのためにも今後もある程度のペースで新しい動画を作った方がポータルサイトとして皆さんも観るのではないかと思う。基本的には、緊急をつける、つけないはあっても、このまま定期的に動画を発信していただければと思う。

【高齢者福祉課・二串氏】 コロナについては国や都からも情報がたくさん来ているので、コロナというくらいでは一旦終了させていただき、もちろん専門職の皆様にとって動画で情報を得ることが一番有益というのであれば、ぜひ企画として検討していきたい。

緊急企画は終了とし、頂いている企画の時期や発信の仕方については検討していく、ということで承認された。

(2) 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト実施方針(2022~2024年度)(案)について 【資料7】

【高齢者福祉課・皆川氏】 皆川氏より資料7と別紙に沿って説明された。

【五十子委員】 資料の3(2)③の医療と介護の連携支援センターの運営の中に「現場で実務を行う医療職や介護・福祉職に対し研修等を実施する」とある。(3)①②にある多職種連携の研修とは違うと思うが、このコロナの感染が言われる中、医療職と介護職の研修といっても内容は違うのではないか。具体的にどういった内容を医療と介護の連携支援センターで考えているのかを教えていただきたい。

【長谷川委員】 3(2)③については、今年度・昨年度行ったものは、介護・福祉職に対して、医療保険制度の中身や、居宅療養管理指導というような医療と介護の共通するような項目について学ぶという研修会を行っている。来年度については、医療保険の改正が予定されている。その中には医療保険の方で地域ケア推進会議に協力をするという項目が出てきている。そういう部分を介護・福祉職も学んでいきたい。実際医療職向けの勉強会というのはまだ開催の実績はない。

- 【五十子委員】 来年度、医療職へどういった内容の研修を考えているか教えていただきたい。多職種との連携とはまた別だと思うので医療職への研修の内容を教えていただければと思う。
- 【長谷川委員】 医療職向けの研修会というのは現状検討して、まだ報告できるものはないので、医師会、歯科医師会、薬剤師会の皆様と検討して報告していきたい。
- 【五十子委員】 3(5)の「感染症対策等災害時の体制整備」は誰が誰に対してのものか。高齢者に対してか、多職種の人達に対してのものか。そして「必要な知識の習得」とあるが、それは誰が教えるのか教えていただきたい。
- 【高齢者福祉課・皆川氏】 必要な知識の習得については、例えば今年度昨年度でいうと、医療職の方にご協力をいただいて感染症について介護職の方々にお伝えするような動画を作成していただいた。互いに知識を補いあって感染症に対応していこうということで取り組んできた部分だと思う。今後について具体的な内容はまだないが、その都度状況を見ながらこちらの協議会の方で決定してければと思う。
- 【五十子委員】 ガイドラインは各専門職ではあるのか。
- 【高齢者福祉課・皆川氏】 感染症のガイドラインということで、訪問介護事業者協議会と訪問看護ステーション連絡会で作成されていると聞いている。こちらの協議会でも情報共有させていただいたかと思う。他の連絡会については情報がない。
- 【五十子委員】 感染症と災害が一緒になっているのか。
- 【高齢者福祉課・皆川氏】 感染症対策のガイドラインとなる。
- 【五十子委員】 災害の非常時のガイドラインというものは各団体であるわけではないのか。
- 【長谷川委員】 災害の発生時については、前回の介護保険法改正時に介護保険事業所ごとにBCPを3年以内に作成するということが定められているため、各事業所ごとに作成をしている段階である。団体ごとで作成しているというのは知る限りではない。

町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト実施方針について承認された。

(3) 救急医療情報キット部会立ち上げについて【資料8】

- 【高齢者福祉課・二串氏】 二串氏より資料8に沿って説明がされた。
- 【五十子委員】 ちょっと失念してしまったのだが、ステッカーを玄関に貼ると独居の老人の家ということがわかるとあまり良くないという質問をしたような気がするが、結局どうしたか。
- 【齋藤議長】 玄関の内側に貼るということになった。
- 【五十子委員】 検討事項①に現状の確認をするとあるが、またアンケートなど取るのだろうか。やめてもらえないだろうか。
- 【高齢者福祉課・二串氏】 医療機関のひっ迫状況は伺っているので、急いでやるということではなく、適切な時期にやれるようにしたい。また全部の医療機関に聞くということではなく、救急病院が一番忙しいと思うが、お医者さんだけではなく、可能であれば連携室の方などに聞かせていただければと思う。時期に関しては別途ご相談しながら進めさせていただきたい。5月とは言わずにコロナが落ち着くまでは延ばせる。
- 【五十子委員】 コロナが収まってからと言っても、コロナが始まってから2年も経つので、どうやってやるかを考えなくてはいけない時期なのではないか。ステルスオミクロンという話も出ている中で、コロナはおさまらないということを前提に考えていただきたい。医療機関にあまり負担をかけていただきたくないので、やる時期の問題ではなく、やり方というものを考えていただきたいという要望である。
- 【高齢者福祉課・二串氏】 ぜひ相談をさせていただきながら、我々の方でもアイデアを出して前向きにいいものをつくりたい。
- 【五十子委員】 各病院もドクターもだが、地域連携課も忙しい。そこを配慮していただきたい。
- 【齋藤議長】 部会の推薦を3月中に依頼することになるか。
- 【高齢者福祉課・二串氏】 部会の推薦は4月中に推薦をお願いしたい。

【長谷川委員】情報の更新頻度や配布対象者及び在庫についての課題問題がある。救急医療情報キットについて当センターで市内の医療機関の方をまわらせていただいた際に、先生や受付の方に救急医療情報キットの確認をしているが、在庫切れのままであるなどの声もあった。また中のシートはどうやって更新されていくのかは非常に課題となっていく部分であるので、その点も部会の方で検討していただきたい。

【齋藤議長】消防署にも現場の活用確認をするということになるのか。

【高齢者福祉課・二串氏】消防署に確認したのが、1月のはじめくらいのオミクロンの感染拡大が本格化する少し前に確認をした。その段階では、5月の立ち上げでも問題ないと言っていたが、現状の中で確認が取れていないので、5月で大丈夫なのかという時期については消防隊の方とも相談しながら進めていきたい。

【西原委員】町田の地域ケア会議に出席した際、消防隊がそもそも個人情報情報を病院や家から持ち出すということに制限があるというのが実態であるという報告があったと記憶している。配布する側である支援センターや先生やケアマネが緊急時に間に合うようにという思いで行うと思うが、実際にはそこに書かれたものを持ってくるのは消防隊の方であると思うが、この擦り合わせができていいのか前から気になっていた。

実際に救急病院に勤務しているが、家から搬送されると家はわかるが、ご家族などと連絡が取れないということも頻繁にあり、何らかの方法で苦労しながら情報を集めるという現状ではある。情報がわかれば支援が早いということもわかるが、個人情報であるとか、救急病院に持ってこられなくても解決しているということは実際にはあるので、やるということも大事だが、やるべきかということ現場の意見をもう少し聞いていただく方がいいのではと思う。

【高齢者福祉課・二串氏】やるべきか、あるいはもっとよい方法はないかという検討は部会の中で、やることを前提ではなく、よりよいやり方というものを検討していきたい。

個人情報の取り扱いに関しては、消防隊から情報シートは持ち出しができないという課題は聞いている。消防隊はどうしているかという、現状ではシートを書き写していると聞いているので、もっと使い勝手がいいような仕組みができないかということ部会でも検討が必要だと思う。

あり方も含めて部会で検討していくということで承認された。

4 その他

(1) 各協議会委員の報告・意見交換など

【高齢者福祉課・二串氏】町田市内の介護施設・事業所における業務継続計画(BCP)作成に関する参考資料の追加提供について。前回の町プロ協議会で介護事業所における業務継続計画(BCP)作成の参考となる資料を、昨年4月発行の町田市地域防災計画の中から抜粋したものでご報告させていただいた。このたび12月に町田市地域防災計画の資料編が発行された。資料編の中でBCP作成に関して関わりのありそうな箇所は第3章データベースの中の「災害医療施設」及び「浸水想定区域及び土砂災害警戒区域等内の要配慮者利用施設」となる。また別資料として今年の2月に町田市洪水・土砂災害ハザードマップが公開された。これまで、洪水ハザードマップ、土砂災害ハザードマップを個別に作成していたが統合し、洪水・土砂災害ハザードマップとした。こちらもあわせてBCP作成の際の参考としていただきたい。町プロポータルサイトの第3回協議会のページに資料とリンクを掲載している。

【大島委員】引き続きの情報提供ありがとうございます。先ほど長谷川氏からも話があったが、現状としては各法人、事業所単位でまだ計画をたてているかいないかという状況である。特に小さな事業所などはどういった内容で立てていくのか、という状況ではあるが、行政の研修がオンラインで行われるようになってきている。これからまだまだ作り上げていくというところでは、連絡会の中ではまず圏域単位でこのBCPについて話し合いの場をもっていくのも必要ではないかという意見もでてくる。まずは連絡会の役員会の中から今日いただいた内容をしっかり情報発信をして、いずれは各連絡会とも連携をはかりながらBCPを作成していければと思う。

【高齢者福祉課・二串氏】 医療と介護の資源紹介イベントの延期開催について。前回の町プロ協議会で、資源紹介イベントの延期開催についてお知らせしていたが、開催日程が確定したのでご報告する。3月1日(火)～22日(火)の約3週間となる。今回のイベントでは、南第2高齢者支援センターの圏域内の医療・介護の52の事業所がご協力いただけることになった。現在新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の期間中ではあるが、感染症予防に十分配慮を行いながら実施させていただく。

【大庭委員】 施術報告書について。前回の本協議会においていただいたご意見について各事業所で話しあった内容を2点ご報告する。

1. 初回のアセスメントと目標設定については、前回行っているのかというご意見をいただき、その際に行っている事業所とそうでない事業所があるとお答えさせていただいた。今回話し合った結果、4月からアセスメント、目標設定をおこなっていくということになった。目標については患者様の状態に応じて設定していくということになった。

2. アセスメントシートについては事業所によって使用しているところとフォーマットがないので使用していないところがあった。話し合った結果、以前連絡会で作成したフォーマットを元に再度議論を重ねて、アセスメントシートを作成することになった。

次回の協議会で資料としてご報告させていただきたいと考えている。

【介護保険課・菊地原氏】 新型コロナウイルスの感染拡大に伴う現状の共有について。

私どもでは、利用者や職員の方の新型コロナウイルスが発生した際の感染者報告を受けている。

2022年1月以降、いわゆる第6波での感染者報告が非常に急増している。その状況は現在でも継続している状況である。今まで一番多かった報告の件数が、昨年の1月第3波の時は1ヶ月間30件程度だったが、今回の第6波では1月と2月合わせて延べ200件以上の報告を受けている。また今回の特徴として、一度感染者が発生すると、感染の連鎖がなかなか止まらないという状況になる。こうした中で現場でご対応されている介護施設・事業所の皆様は非常に厳しい状況であるということをお我々は認識している。皆様については、このような状況下にも関わらず、介護事業サービスの継続のために日々ご尽力をいただいているので、この場をお借りして御礼を申し上げたい。皆様ありがとうございます。

【川村会長】 今日その対応で遅くなってしまい申し訳ない。発熱外来がかなり増えていて診療も大変な状況である。感染の実際問題としてみると、第6波は家庭内感染が多いので、1人出してしまうと家族全員感染してしまい、一挙に増えてしまう。特に小児科の先生のお話を聞くと、お子さんが前に比べて非常に感染者が多いので、陽性となると一気に家族に広がる。うちでも訪看をやっているが、やはりお子さんが感染して、親が濃厚接触または感染ということでもかなり広がりもあって、大変だと感じているところである。去年のデルタの時は8月中旬から忙しくなって、9月に入るとぱたぱたと減少してほっとした記憶があるが、第6波は急激な増え方としては高止まりという感じで、少し減るのかと思いつつなかなかずっと下がってはこないかなという感じで、まだまだ続きそうだと感じる。

【岡元委員】 訪問看護ステーション連絡会でも感染症に関しては様々な協議を行っており、感染拡大にともなって、各クリニックで感染者が出た場合に対応して、2、3日以内に病院に入院できない場合、対応するというシステムを作っているところである。今後そうしたシステムを構築でき次第、また広めていく形になっていくと思うので、その際には報告したいと思う。

【川島委員】 (町田市)訪問介護(事業者協議会)理事会の中でもこのことについて話し合った。ヘルパー自身もどれだけかからないように頑張ってもご家族からもらってしまうと、濃厚接触者、または本人も発熱ということが起きる。ヘルパーステーションとしては、訪問介護事業を継続するために、代行を立てなければならないので、管理者やサ責はお休みができないという状況を皆で共有し、労りあった会議をしたばかりである。いつ終わるかわからないが、利用者様の不利益にならないように皆で協力して頑張っている状況である。

【井上委員】 2月初旬に施設部会があった。各施設でクラスターが発生し、部会の出席も厳しい状況であった。高齢者の方の感染者もそうだが、特に従来型の個室がない施設で陽性者が出た場合には、保健所の方も濃厚接触者を特定できないという現状があり、そのフロア全員の利用者様とその日に

勤している職員全員が濃厚接触者という指示をいただくような施設もあった。そうした場合は職員が自宅待機となってしまい、陽性者及び濃厚接触者がいるフロアに違うフロアから職員が応援に来るといった形を取らざるを得ない。特に人員に対しては厳しいという現状の中でやっている状況である。

【臼井委員】 通所介護事業所の場合、普段家にいらっしゃる方が主であるので、その分この第6波はご家族やお子様からの感染が増えているという印象である。デイサービスは複数の事業所を使っているご利用者様が多いので、1人感染の方が出してしまうと複数の事業所で感染が広がってしまうというケースも見られている。そういったことを防ぐために昨年、連絡会でも速やかな情報共有できるような書式を作成して、情報共有をすすめているところである。通所事業所、特にデイサービスの場合は、ご利用者様が来所して介護報酬が発生するので、ご利用者様がお休みになると即事業所の減収につながってしまうので、人力的なところもあるが、どこの事業所も経営的にも苦慮しているところかと思われる。

【川村会長】 追加で一言。皆さんご存知だと思うが、オミクロンは若い人になると2、3日で良くなっていくことが多いが、高齢者がかかるとコロナ自体はある程度治まっても、元々の基礎疾患が悪化して、長引いたり、またこの寒い時期は高齢者は肺炎を起こして入院をすることも多いのに、更にということで病院の方も大変に苦勞されているということをつけ加えておく。

【五十子委員】 町プロは2013年10月に在宅医療を増やしていかないといけないということで始まり、行政の力も借りて各連絡会もこれだけ参加していただけるような大きな団体となった。いいツールもできて今後もそれを活用していくことも大事ということも認識しているし、これからも部会の中で話し合っていければいいと思っている。コロナがこれだけ騒がれている中、コロナの中でどうやってやるかという話し合いやコロナの情報共有もとても大事なことだと思うが、どうしても話に出てこないのが、最後に話をしないといけないのかなと思った。

マスコミでよくご存知だと思うが、1ヶ月くらい前に訪問診療の先生が散弾銃で撃たれて亡くなったということがあった。先ほどの町プロの実施方針の中でもあるように、2035年度になる頃には在宅医療が1.6倍くらい増えることになる。訪問の先生たちにとってこれはまずいことになったと思ったのが正直なところである。訪問診療をしようとか、頑張って往診まで行こうという先生もおそらくひるんでしまった先生方が全国的に増えてしまったのではないかな。あえてコロナの中、医師会の先生方に「訪問医療をしますか」というのはナンセンスだからやらないが、自分だったらちよつとひるむだろうなということが感覚的には普通なのではないだろうか。理学療法士の方も撃たれている。細かい内容まではわからないが、いわゆるクレマー、トラブルメーカーのような方だということは行政の方も把握していたようだ。先ほどのように個人情報の問題もあるとかいろんな壁があつてうやむやにするわけにはいかないのではないかな。人が亡くなっている事件であつて、それだけのことを、これだけ連絡会が集まっている協議会なので、本来だったらすぐに協議会の議題にあげて、どうやってやることができるのかという話し合いをしなくてはいけないのではないだろうかと思う。各団体も含めてどのようにお考えなのかと。

今までのやってきた内容の振り返りと報告をして、なおかつこれからこういうことをやりましょうという事前の資料の議題の承認を取るだけでただ終わるだけの協議会にするのは良くないのではないかなと思う。人が亡くなっているようなことが起きているということでその辺のお考えを行政も含めての意見を聞きたい。

【永見委員】 事件については非常に衝撃であつた。自分自身は病院に勤めているので、ご自宅に伺うということはないが、退院支援の時は伺うこともある。正直そこまで考えが及んでいなかった部分もあるが、やはりこの場で話し合うことであると話を聞いて感じた。具体的にどういう風にしていったらということとはなかなか難しいと思いつつも、各団体が繋がっているというところでいうと1つの事業所が対応するという時に、呼び出されてということだと思うので何かしらそこで対策を話し合ったりということができるようなことを作っていく必要があると思った。

【五十子委員】 あの散弾銃で撃たれた先生も含めて、今の町田市の現状で訪問診療につなげたいと思うと、各連絡会の方々も頼みやすい先生、受けてくれそうな先生ということがなんとなく暗黙の中ではないかと思う。早急に何か考えないとならない。情報共有の仕方、個人情報を守った上での情報共有をどのようにするのか。行政も含めて支援センターも把握するのか。そこからどうやって、医療側にも情報

が来てもらえるのだろうか。いろんな文書にすると、個人情報の問題があるんだと思うので、法に触れないグレーなどところになるのかもしれないが、それでも人の命がかかっているのであれば、いかなものか。

【長谷川委員】先生に訪問診療をお願いするときにはケアマネジャー、支援センターが最初に関わるので、最初にインテークをさせていただくときにある程度利用者様やご家族の背景であったり、調査はしながら、先生にお話しさせていただくことになる。中にはケアマネジャーを3ヶ月単位で変える方であったり、先生も色々な先生にかかっているかかりつけ医がないという方がいることも事実だが、そういうことであれば、訪問診療をされる先生にはしっかりと情報はケアマネジャー、支援センターの方でお伝えする。ただ、この事件のように銃を持っている、持っていないというところまではケアマネジャー、支援センターでは把握ができないので、どこまでお伝えすればいいのか、命の危険に関することであればしっかりと全てお伝えする必要はあると考える。

【五十子委員】ケアマネもとても怖い思いをするのではないと思うが、どうなのか。

【大島委員】今回の事件では命に関わる場所にいるんだとあらためて自分たちも認識をした。今回息子が働いていたかなど細かいことはわからないが、いわゆる8050のような状況だったのではないと思う。その息子を適切な機関に繋げることができたのかということがあるが、多機関に関わるべき事案だったのではないかという印象がある。ケアマネは1人で訪問することが多いので、最初に命を落とす可能性もあるが、危機感を感じたときは速やかに関係機関と連携をはかって、次の訪問はどのように進めていくか、今回の件に関してはかなり医師会にも息子から何回も苦情が入っていたというようなこともあったようなので、そうしたケースについては、単独で訪問を控えるとか多職種で話し合いをした上で対策をそれぞれで講じていかななくてはいけないと痛感した。

【高齢者福祉課・青木氏】情報関係については、長谷川委員からもあったが、出せるもの、出せないものというのがある。さきほどグレーとあったが、市役所という立場ではグレーというのはできない。〇×という状況になる。その中でどうやったら情報共有できるか、そういったものをこれから考えていかなければいけないし、考えたものを市では個人情報保護運営審議会に通していくという形でなんとかやっていく。今の段階では思いつかないようなケースになってくる。ただ命というのは大事になってくるのでこちらに関しては考えていきたいし、早めに行けるように努力していきたい。

【五十子委員】明日にでも決定するような事案だと思う。検討するというのは重々わかるが、役所はそれでいいかもしれないが、僕らは現場に出ているので、毎日ずっとリスクを負ってやることになる。その温度感はずごく感じる。自分には役所の方から町プロの日を変えてでもやるのではないかと思ったくらい。現場との温度感はあるのかなど。役所との温度感を何とかしないといけないので、早急に〇×しかできないのであれば〇というのはどこまでなのかすぐに情報を出していただきたい。現場で情報共有ができるようなものを出していただかないと現場はグレーでやるしかない。自分の命がかかっているんで、役所としては〇はどこまでの範囲なのかということも教えていただきたい。よろしくお願いいたします。

【高齢者福祉課・青木氏】色々ありがとうございます。こちらの方もできるだけ短時間で対応していきたいと考えている。

(4) 次回の協議会の開催日程

2022年5月19日(木)19:00-21:00

5 閉会挨拶

【川村会長】皆さん、お疲れ様でした。会議の中でいろいろ話が出たが、コロナで大変な中、皆さんも大変にご苦労されていると思う。今日もしっかりと会議をしていただきありがとうございました。これからまだまだコロナが続くのでご苦労かけると思うが、皆で協力してやっていきたい。最後に五十子先生から非常に重要なことを言っていた。訪問をするというのはいろんな意味でのリスクがある。正直長年やっていて、ある程度油断まではいかないが、慣れてしまっていて、危機意識を忘れていたかなというふうには思う。事件のようなところまではいかなくても、いろんなリスクをはらんでいるので、やはり訪問に

行くときに限らず、医療も介護もリスクというものがあるということをしかりと意識をして日々の活動をしかりやっていく。その中で皆で協力して、できることを早めに情報共有するということで対策を練っていくということが大事なのではないかと思う。五十子先生ありがとうございました。また次回に向けて宜しくお願いします。

以上の議案審議、協議を行い、2021年度第3回の協議会を閉会した。

以 上